

大空町

8339 水間 倫

1. 概要

1.1 地名の由来

大空町は、北海道網走支庁管内の網走郡の町。2006年3月31日、女満別町と東藻琴村が合併して発足した。「大空町」という名称は、澄み切った大空、そしてその大空の下に広がる実り豊かな大地のもとで、住民が夢や希望を持ち、晴れ晴れした気持ちで暮らしていくことを目指すという意味で命名された。

1.2 歴史

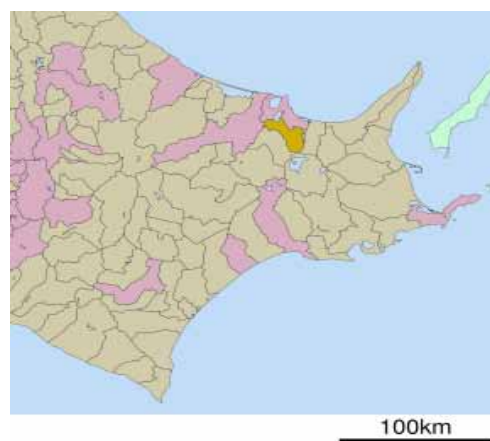
1890年にマッチ軸木材伐採のため造材小屋が作られ、人が居住しはじめ、1898年には農業に従事する者が定住し本格的な開拓が始まる。1912年に北見～網走間の鉄道が開通し女満別駅が開業する。以後急速に入植者が増え、基礎的集落が編成される。1921年に現網走市である網走町から分村し女満別村が誕生する。1947年には網走町の市昇格と同時に東藻琴村を分村。1951年には町制を施行し、女満別町となる。そして、2006年3月31日に女満別町と東藻琴村が対等合併し「大空町」となる。

2. 地理と気候

2.1 位置

大空町は北海道の北東部の網走支庁管内に位置し、東は小清水町、西は北見市、南は美幌町、北は網走市と接し、網走国定公園と阿寒国立公園に囲まれ、緯度は、東経 144 度 23 分から 144 度 02 分、北緯 43 度 42 分から 43 度 58 分の範囲に位置しており、面積は 343.62 平方キロメートルである。

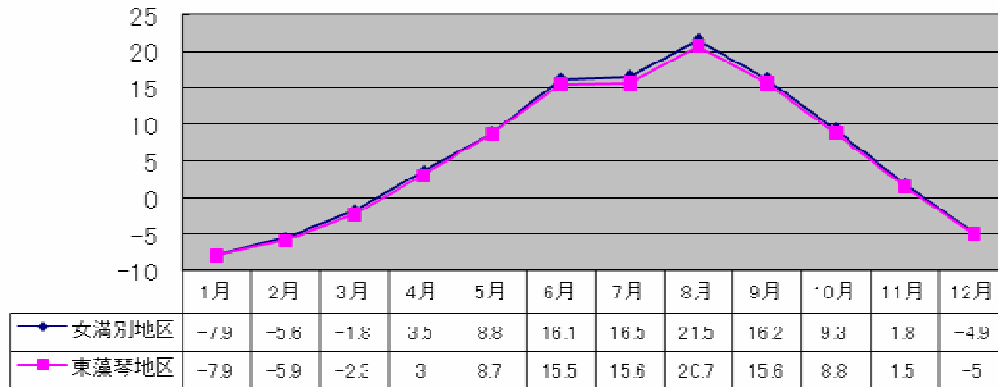
図 1：大空町の位置



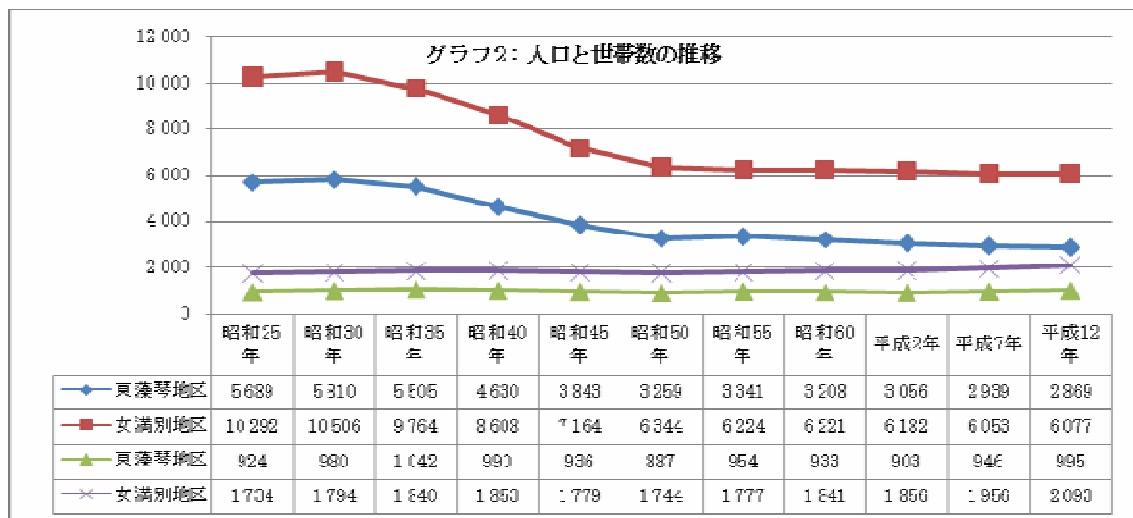
2.2 気候

大空町は北海道の北東部の網走支庁管内に位置する。旧女満別町域は、台地と網走川流域の低湿地で構成され、高台（東部に広がる台地）では畑作、低台（網走川流域の低湿地）では水稻を中心とした農業が発達している。旧東藻琴村域は、北部から南部の山岳地帯にかけて平野・丘陵が広がる。

グラフ1: 月別平均気温



3. 人口と世帯数



人口は徐々に減少している。しかし、世帯数は増加している。1人暮らしや核家族が増加したことが原因だろう。東藻琴地区の世帯数にあまり変化はみられないが、女満別地区の世帯数が徐々に増加している。

4. 産業

4.1 産業別人口

工業などの第二次産業にくらべ、農業や林業などの第一次産業やサービス業などの第三次産業が3倍から4倍と大きく発展している。第一次産業が発展している理由として、耕地面積が広いことが原因であると考えられる。しかし、ここ10年間では、農家人口、販売農家、農業従事者数ともに減少し続けているのが現状である。

4.2 農業

農業は、本町の主産業である。耕地面積 12,667ha で全町の約 37%を占める。主に、米、麦類、馬鈴薯、甜菜、豆類、野菜と多岐にわたっている。特に甜菜の収穫量は、217,200t と非常に多い。

4.3 畜産

乳用牛が約 5,200 頭、肉用牛が約 6,300 頭、豚が約 12,100 頭飼養されている。そのほかにも馬・羊・鶏・ダチョウなども飼養されている。牧草の収穫量は、95,100t と豊富な量を収穫できる。

4.4 林業

森林面積は、13,452ha でカラマツ、トドマツを主体とした植林を行っている。人工林の面積は、8,923ha で、人工率は 66%となっている。造林・下刈・除間伐事業を支援している。

4.5 水産業

網走湖での内水面漁業が行われている。主に、しじみ、わかさぎ、しらうお、かつおなどの漁業が行われている。網走湖の漁業資源を保護・増殖するために、しじみの資源調査・水質環境調査事業を支援している。

4.6 特産品

4.6.1 「銀嶺の舞 大空」

大空町誕生記念酒。女満別産の「はくちょうもち米」と藻琴山から湧き出る水「銀嶺水」がひとつになり誕生した。

4.6.2 「めんこ稲」

女満別特産のもち米である「はくちょうもち」を原料に造られた女満別の地酒で、純米酒と本醸造どちらもスッキリ飲みやすい辛口に仕上がっている。

4.6.3 物産 「のんきーみそ」

農家のお母さんたちの手作りみそ。東藻琴の大豆と米糲のほかに天塩しか入っていない無添加であり、オホーツクの風土で

グラフ3:産業別人口

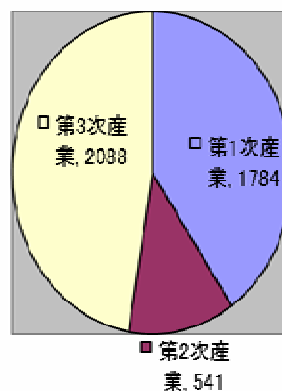


図2: めんこ稲



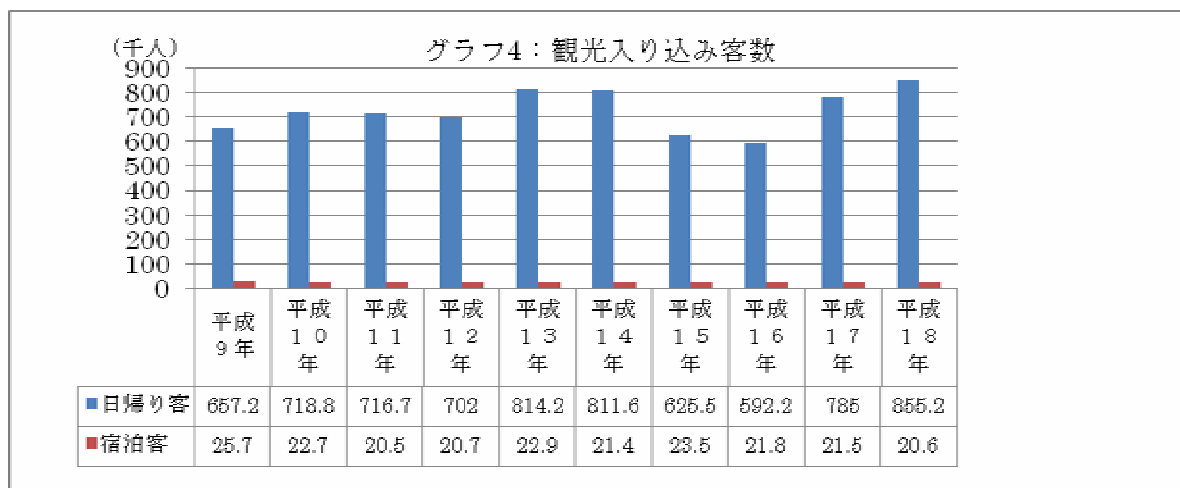
図3: のんきーみそ



じっくりと熟成され、出荷後も発酵を続ける生きた味噌。

5.観光

5.1 観光入り込み客数



日帰り客数については、平成 14 年までは順調に増加していたが、平成 15,16 年には大きく減少してしまった。しかし、平成 17 年以降は再び増加の傾向を見せている。宿泊客数については、多くはないが安定した客数を保っている。

5.2 名所

5.2.1 ヒマワリ

ヒマワリと言うと夏の花というイメージが強いが、大空町の畑では秋にもかかわらず何十万本ものヒマワリが咲いている景色を見ることができる。大空町に咲いているヒマワリは、農家が小麦の刈取後に畑の肥料用として播いているものだが、広大な北海道の畑に咲いたヒマワリの花は大空町の各地を黄色い大地へと替え、観光客の視線を集めている。朝日ヶ丘公園や空港周辺では 7 月下旬頃から開花し、農家の畑に咲くヒマワリが咲き終える 10 月下旬頃まで楽しむことができる。

5.2.2 芝桜

空からも見えるピンクのじゅうたん。東藻琴地区にある芝桜公園では、初夏の訪れとともに芝桜の可憐なピンク色の花が日本でも有数の規模約 8 万平方メートルの丘陵一面を染め上げます。大空町の芝桜はその面積の大きさだけでなく、強い勾配の斜面に咲くので非常に見応えがあると評判である。また、飛行機で大空町を訪れるとき、運がよければ空から見ることができ、まるでピンクのじゅうたんを敷きつめたような風景にきっと感動することでしょう。公園内には、ゴーカートや釣り堀池、バンガロー完備のキャンプ場なども

完備している。芝桜は桜といってもいわゆる桜の仲間ではなく、ハナシノブという花の仲間で、桜に似た5弁の花が地面を覆うことから芝桜と呼ばれるのである。

図 5：藻琴山芝桜公園



参照ホームページ

wikipedia <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E7%A9%BA%E7%94%BA>

大空町ホームページ <http://www.town.ozora.hokkaido.jp/dd.aspx>

農林水産省 <http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/map2/01-03/564/agriculture.html>

<http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/map2/01-03/564/forestry.html>